

京セラ (コード 6971)

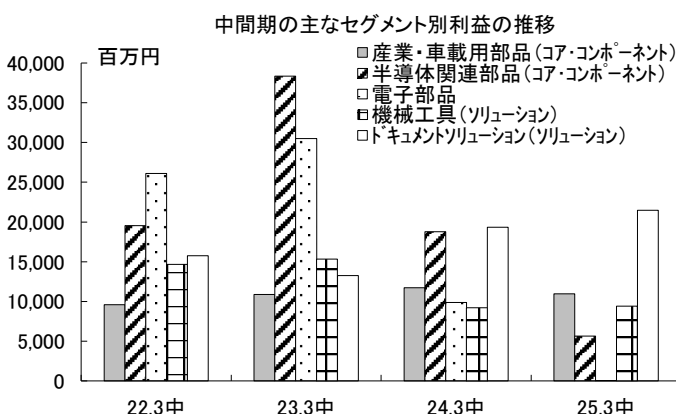
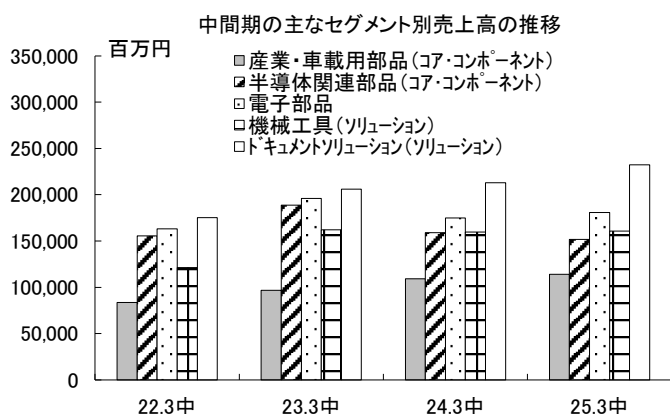
◆各決算期中の中間期業績推移(連結) (25.3 予は会社側非開示のため表記しない)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	1,012,172	76,488	52.7	25.0	60,050	▲69,652	▲49,143	378,080
24.3	985,290	54,002	39.9	25.0	111,268	▲81,568	▲28,679	394,649
25.3	998,588	37,876	25.6	25.0	125,949	▲102,836	▲51,094	386,862

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	2,025,332	128,517	89.2	50.0	179,212	▲168,833	▲61,257	373,500
24.3	2,004,221	92,923	71.6	50.0	269,069	▲158,413	▲82,596	424,792
25.3予	2,020,000	68,000	50.4	50.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



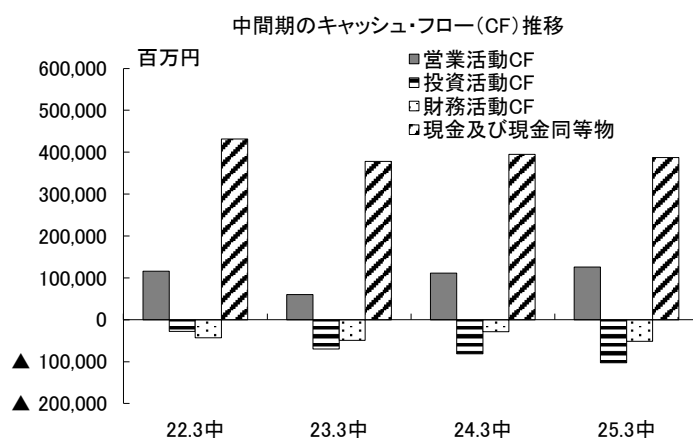
25年3月期中間期の業績概況…25年3月期の中間期(24年4~9月)は、半導体関連部品が減収となった一方、産業・車載用部品や電子部品、ドキュメントソリューションなどが好調に推移したことから、売上高が前年同期に比べ約1%増となった。利益面では、部品の受注低迷に伴う生産設備の稼働率低下や人件費などの増加を主な要因に、営業利益は約30%減となった。

当期の売上高は9,985億8,800万円(前年同期比1.3%増)、営業利益は378億7,600万円(同29.9%減)、税引前利益は518億2,000万円(同33.5%減)、親会社の所有者に帰属する中間利益は360億7,800万円(同36.1%減)となった。事業セグメント別売上高は、コアコンポーネント2,816億7,800万円(同0.3%減)、電子部品1,809億2,300万円(同3.5%増)、ソリューション5,461億8,700万円(同1.7%増)などで、コアコンポーネントでは、産業・車載用部品1,138億5,700万円(同4.3%増)、半導体関連部品1,517億4,100万円(同4.5%減)など、ソリューションでは、機械工具1,608億1,000万円(同0.7%増)、ドキュメントソリューション2,322億2,200万円(同9.1%増)などとなった。また、事業セグメント別利益は、コアコンポーネント172億9,500万円(同43.2%減)、電子部品4,700万円(同99.5%減)、ソリューション332億9,900万円(同6.1%増)などで、コアコンポーネントでは、産業・車載用部品109億8,300万円(同6.4%減)、半導体関連部品56億3,400万円(同70.0%減)など、ソリューションでは、機械工具94億3,400万円(同2.4%増)、ドキュメントソリューション214億9,100万円(同11.1%増)などとなった。

コアコンポーネントにおいては、半導体製造装置向けファインセラミック部品などが好調に推移したものの、情報通信インフラ市場向け有機基板の販売が減少し、減価償却費など固定費増な

どから、同セグメントは減収減益となった。電子部品では、情報通信及び産業機器市場向けのコンデンサや水晶部品などが円安効果もあって増収となったが、KAVX 社の新工場の稼働率低迷に伴う原価率の上昇や人件費増、地震に伴う損失発生などの影響で、大幅な減益になった。ソリューションはドキュメントソリューションの好調や円安効果などから増収増益となった。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末における現金及び現金同等物残高が 3,868 億 6,200 万円（前年同期末比 2.0%減）となった。営業活動 CF は、中間利益 376 億 7,000 万円（前年同期比 35.1%減）、減価償却費及び償却費 812 億 900 万円（同 7.8%増）、営業債務及びその他の債務の増加額 76 億 700 万円（前年同期は減少額 263 億 3,900 万円）などにより、1,259 億 4,900 万円の収入（前年同期比 13.2%増）となった。投資活動 CF は、有形固定資産の購入による支出 913 億 5,400 万円（同 21.6%増）、有価証券の購入による支出 62 億 5,700 万円（同 572.1%増）などにより、1,028 億 3,600 万円の支出（同 26.1%増）となった。財務活動 CF は、長期借入金の調達及び返済による差引収入額 18 億 4,800 万円（前年同期は長短借入金の調達及び返済による差引収入額 707 億 1,600 万円）、リース負債の返済 150 億 6,600 万円（前年同期比 20.7%増）、配当金の支払額 378 億 7,200 万円（同 1.3%減）、自己株式の取得による支出 200 万円（同 99.996%減）などにより、510 億 9,400 万円の支出（同 78.2%増）となった。



25年3月期の通期業績見通し…25年3月期の通期業績は、売上高 2 兆 200 億円（前期比 0.8%増）、営業利益 680 億円（同 26.8%減）、税引前利益 1,000 億円（同 26.5%減）、親会社の所有者に帰属する当期利益 710 億円（同 29.8%減）の見通しで、期初予想値（売上高 2 兆 500 億円、営業利益 1,100 億円、税引前利益 1,500 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 1,120 億円）から減額修正された。事業セグメント別で、売上高予想は、コアコンポーネント 5,590 億円（同 1.8%減。修正前 5,800 億円）、電子部品 3,500 億円（同 0.6%減。修正前 3,600 億円）、ソリューション 1 兆 1,327 億円（同 2.8%増。修正前 1 兆 1,310 億円）などで、コアコンポーネントでは、産業・車載用部品 2,340 億円（同 4.2%増。修正前 2,320 億円）、半導体関連部品 2,910 億円（同 7.5%減。修正前 3,150 億円）など、ソリューションでは、機械工具 3,137 億円（同 1.0%増。修正無し）、ドキュメントソリューション 4,800 億円（同 6.2%増。修正前 4,700 億円）など。利益予想は、コアコンポーネント 380 億円（同 33.6%減。修正前 610 億円）、電子部品 10 億円（同 84.7%減。修正前 300 億円）、ソリューション 800 億円（同 14.5%増。修正前 860 億円）などで、コアコンポーネントでは、産業・車載用部品 250 億円（同 5.3%減。修正前 290 億円）、半導体関連部品 120 億円（同 60.5%減。修正前 310 億円）など、ソリューションでは、機械工具 187 億円（同 11.1%増。修正前 220 億円）、ドキュメントソリューション 480 億円（同 9.2%増。修正前 470 億円）などとなっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。